

## 名古屋の都市評価に関する調査 - 都市の国際比較を通して -

研究員 安藤 修一

### 第1章 都市評価にあたって

#### 1-1 なぜ今、都市評価が必要なのか

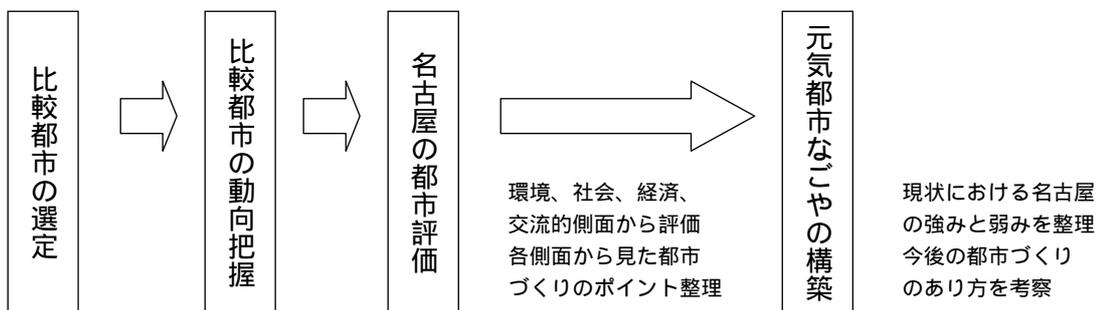
名古屋は近年、「元気なまち」として新聞や雑誌等で数多く取り上げられている。名古屋駅地区は次々と再開発され、栄地区には有名ブランドが数多く進出するなど名古屋の元気は暫くの間、続くのではないかと思えるほど満ち溢れている。表向きの元気に目を奪われがちであるが、事業所数や事業者数が減少し産業が空洞化するなど暗い影が足元に忍び寄っている。

「元気都市名古屋」の実状は意外と危うい。新聞や雑誌に踊らされることなく、今こそ名古屋を冷静に見つめ(評価し)成熟社会においても元気(活力・魅力)な名古屋であり続けるために、必要な都市づくりのあり方を考察する必要がある。

#### 1-2 都市評価の方法

IT技術の発達による急速なグローバル化が進む現在、国内的な視野だけでなく世界を意識した都市づくりが必要である。そこで本調査では、都市圏の中核的機能を担う海外都市と名古屋を比較分析することで、相対的に名古屋を評価した。また、4つの側面(環境、社会、経済、交流)から指標を選び、数値による分析を行うことで、名古屋を総合的かつ定量的に評価した。

#### 1-3 調査の進め方



### 第2章 名古屋と比較分析する都市の選定

#### 2-1 比較都市の選定(基準)

経済水準が高く社会的に成熟した欧米諸国の都市であること。  
都市規模が名古屋に類似していること。(100万~300万人程度)  
首都(中心都市)ではなく、地方の中核都市(第2、第3の都市)であること。  
ものづくりが盛んな都市(工業都市)で、交通の要衝として栄えた都市であること。

#### 2-2 比較都市について

シカゴ(アメリカ合衆国/イリノイ州)  
バーミンガム(イギリス/ウェスト・ミッドランズ地方)  
リヨン(フランス/ローヌ・アルプ地方)  
ミュンヘン(ドイツ/バイエルン州)

### 第3章 比較都市の動向調査

#### 3 - 1 シカゴ（アメリカ）

シカゴは、アメリカ合衆国北東のイリノイ州に位置するニューヨーク、ロサンゼルスに次ぐアメリカ第3の都市である。アメリカのほぼ中央に位置することから、古くから交通の要衝として栄えた。1871年に大火に見舞われたが、その後の復興により高層建築物が建ち並ぶ近代都市へと生まれ変わった。

	人口	都市圏人口	市域面積	出生率（国）
2000年	289万人	839万人	58,850ha	2.13

（特色のある都市づくり） 全米一の「環境先進都市」を目指した都市づくり

#### 3 - 2 バーミンガム（イギリス）

バーミンガムは、イングランドのほぼ中央に位置するロンドンに次ぐイギリス第2の都市である。産業革命発祥の地であり工業都市として発展したが、近年では、脱工業都市を目指した都市づくりを進めている。

	人口	都市圏人口	市域面積	出生率（国）
2001年	98万人	255万人	26,777ha	1.63

（特色のある都市づくり） 住民との協働による創造都市づくり

#### 3 - 3 リヨン（フランス）

リヨンは、北ヨーロッパと地中海地域の接点に位置するとともに、ドイツ、イタリアにも近いフランス第2の都市である。ローマ時代から栄えた2000年以上の歴史をもち、旧市街地はユネスコの世界遺産にも登録されている。

	人口	都市圏人口	市域面積	出生率（国）
1999年	126万人	579万人	55,000ha	1.90

（特色のある都市づくり） 国際パートナーシティづくり

#### 3 - 4 ミュンヘン（ドイツ）

ミュンヘンは、アルプス山脈とドナウ川の間位置するベルリン、ハンブルクに次ぐドイツ第3の都市である。BMW やシーメンスが本社を構えるなヨーロッパ有数の工業都市であるとともに、観光都市としても有名で観光客の数はパリ、ロンドンに次ぐ規模を誇る。

	人口	都市圏人口	市域面積	出生率（国）
2000年	125万人	240万人	31,043ha	1.29

（特色のある都市づくり） 住民請求による都市景観の保全

## 第4章 名古屋の都市評価に関する調査

### 4 - 1 環境的な側面

#### (1) 名古屋の都市評価

- 「ゴミの総排出量」や「二酸化炭素排出量」は相対的に少なく、また、削減量においても比較都市に比べ先進的であり高く評価できる。
- 「都市公園面積」は、6.8 m<sup>2</sup>/人と他都市(8.3 m<sup>2</sup>/人~32.3 m<sup>2</sup>/人)と比べ規模が小さく、新たな対応が求められる。
- 「交通手段別利用割合」は比較都市同様に車の利用割合が高いため、環境にやさしい公共交通の利用を促進する必要がある。

#### (2) 今後の取組み(他都市から学ぶ点)

- 「二酸化炭素排出量」の削減については、シカゴで実施している「産業界との連携」やミュンヘンの「環境教育(50/50プログラム)」などが参考となる。

#### (3) 今後の都市づくりのポイント

- 環境施策と他施策(環境企業の育成、公共交通の利用促進など)がリンケージした複合的な環境施策が必要である。
- 住民活動や環境教育などを通じたグリーンコンシューマーの育成が必要である。

### 4 - 2 社会的な側面

#### (1) 名古屋の都市評価

- 「犯罪件数」は他都市に比べ非常に少ない。しかし、シカゴをはじめ比較都市では近年減少に転じているなか、名古屋は急激に増加している。
- 「NPOの数」は比較都市に比べ非常に少ない。社会が多様化する中で、これら民間・市民団体の役割は増大すると考えられるため、幅広い支援策が必要である。
- 「文化施設」は比較都市と比べ少ないとは言えないが、都市の個性化と都市イメージの高揚を図る意味で、世界に発信できる文化施設の整備充実が必要といえる。
- 「駅舎のバリアフリー化率」は相対的に低く、整備の充実が望まれる。

#### (2) 今後の取組み(他都市から学ぶ点)

- 「NPOの支援」については、日本では歴史的に未成熟の状況にあるが、今後の行政施策推進・決定にあたり、市民参画の重要性を鑑み、バーミンガムの「地域戦略パートナーシップ(LSP)」など、新たな市民参加を促す仕組みづくりが望まれる。

#### (3) 今後の都市づくりのポイント

- 住民等が都市づくりにより参加しやすくより活動しやすい仕組みが必要である。
- 都市の個性を強め、都市の魅力を高めるための仕掛けが必要である。

#### 4 - 3 経済的な側面

##### (1) 名古屋の都市評価

- 第三次産業の割合が高く、中でも「商業」の割合が比較都市に比べ高い。
- 「不動産・金融」、「教育・福祉」の割合が比較都市の中で最も低く、今日的なビジネス傾向で拡大を示す分野での起業をサポートするシステムづくりが必要である。
- 失業率は比較した都市の中で最も低く、名古屋経済の堅調さを示している。
- 「主要産業と企業」の点では、トヨタ自動車などの世界企業も存在するなど製造業の分野では全国的な企業が立地している。一方、情報、医療など新しい需要拡大分野の企業立地は、比較都市に比べ少なく今後の課題といえる。

##### (2) 今後の取組み（他都市から学ぶ点）

- 比較都市には、それぞれ企業誘致や企業育成の産業振興のための中心的組織（バーミンガム：ミッドランド開発公社、リヨン：ADERLY など）が存在する。名古屋においても、このような総合的な活動を行う組織の充実が求められる。

##### (3) 今後の都市づくりのポイント

- 広域的、国際的な連携を深める仕組みづくりが必要である。
- 新産業を創造し、国際的な産業誘致を行う組織づくりが必要である。

#### 4 - 4 交流的な側面

##### (1) 名古屋の都市評価

- 空港の利用状況は、旅客数・便数ともに、シカゴやミュンヘンに比べ極めて少ない。また、人口比で比較すると名古屋の空港利用状況は比較した都市のなかで最も少ない。
- 外国政府機関（領事館）の数は、比較都市の中で最も少ないが、名誉領事館の数は多い。
- 受け入れ（宿泊）施設は、施設数・客室数ともに比較都市に比べ充実している。
- 留学生数は比較都市に比べ少なく、人口比においてはその実態が顕著となる。大学が多く立地するにも係わらず、活かされてない。

##### (2) 今後の取組み（他都市から学ぶ点）

- 国際的な交流を通して地域の活力を高めている、リヨンの「国際パートナーシティづくり」が参考となる。

##### (3) 今後の都市づくりのポイント

- 国際交流ネットワークを構築し、国際的なプレゼンスを高める必要がある。
- 受け入れパッケージを充実させるなど、観光客等が訪れたいと思えるような都市の魅力を高める必要がある。

## 第5章 元気都市なごやの構築に向けて

### 5 - 1 名古屋の特徴（強みと弱み）

#### A . 名古屋の強み

A - 1 : 環境と共生した力強い都市経済を構築している。

(都市の経済力が強い、失業率が低い、二酸化炭素・ゴミの総排出量が少ない 等)

A - 2 : 都市の生活インフラが充実している。

(大学が多い、鉄道網や文化施設が充実、下水道が整備されている、商業施設が多い)

#### B . 名古屋の弱み

B - 1 : 新しい時代ニーズ産業が不足し、誘致・育成組織も未成熟である。

(「不動産・金融」、「教育・福祉」の産業割合が低い、「情報・医療」系企業が不足、企業誘致・育成・支援する組織が未成熟 等)

B - 2 : 国際化対応が不十分である。

(空港利用率が低い、外国機関が少ない、留学生が少ない、個性を強める施設が少ない)

B - 3 : 生活の質(クオリティ)を改善すべき点がある。

(都市公園が少ない、NPOが著しく少ない、駅舎のバリアフリーが進んでいない、犯罪件数が増加している 等)

### 5 - 2 今後の都市づくりのあり方

